

年内に収穫・出荷が可能な早生カンキツ「熊本EC10」の特性

早生カンキツ「熊本EC10」は、「ありあけ」に「はるみ」を交配して得られた交雑実生である。果重 200 g 程度で、11 月中旬には完全着色し濃橙色を呈する。12 月上旬に糖度 13 程度、クエン酸 1%以下となり食味は良好で、無核である。単胚性のため育種素材として有望である。

農業研究センター果樹研究所常緑果樹研究室 (担当者: 北村光康)

研究のねらい

熊本県では、12 月の贈答時期は主に温州ミカンが出荷されているが、県南地域の中晩生カンキツ主体の産地では、高品質な温州ミカンが生産されにくく、労力分散と収益増大を図るため、年内から出荷できる高品質な早生カンキツの育成が望まれている。

そこで、年内に成熟し、高品質で食味が良い早生カンキツを育成する。

研究の成果**< 来 歴 >**

「熊本EC10」は、1994 年に「ありあけ」に「はるみ」を交配して育成した交雑実生であり、平成 24 年 10 月 23 日に品種登録された。本系統の特性は以下のとおりである。

1. 樹姿は中間型で、樹勢はやや弱く、葉はやや小さくて、春梢の長さは長くトゲが若干発生する (表 1)。
2. 果実の大きさは 200 g 程度、果形はネーブルオレンジに似た倒卵形である。着色は 10 月中旬に始まり、11 月中旬には完全着色し濃橙色を呈する。果面は滑らかで果皮が極めて薄く、剥皮性は中で、裂果の発生は多い方である (表 2、表 3)。
3. 12 月上旬には糖度 13 程度、クエン酸濃度 1%以下となり食味は良好である。また、じょうのう膜、果肉ともに軟らかくて食感が良い。種子はできにくく、ほとんどの果実が無核であり、しかも花粉を有し単胚性である (表 3)。
4. かいよう病にはやや弱い。

以上のことから、「熊本EC10」は、年内に成熟する高品質な早生カンキツであり、無核であるが、花粉を有し単胚性であることから育種素材として有望である。

普及上の留意点

1. 早生カンキツの育種親として有望である。
2. 導入する場合は、かいよう病にやや弱く、裂果の発生が多いため、施設栽培が必要である。

表1 「熊本EC10」の樹体、葉、枝梢の形態(2009年)

| 品種名 | 樹姿 | 樹勢 | 春葉 | | | 春梢 | | とげの 多少 |
|----------|----|-----|-----------|----------|------------------------|----------|-----------|-----------|
| | | | 葉身長 cm | 葉幅 cm | 葉面積 cm ² | 長さ cm | 節間長 cm | |
| 「熊本EC10」 | 中間 | やや弱 | 6.8 | 3.6 | 16.8 | 14.3 | 1.66 | 少 |

表2 「熊本EC10」の果実特性①

| 品種名 | 果実 の形 | 果形 指数 | 果皮 の色 | 果皮色(ハンター値) | | 果面の 粗滑 | 剥皮の 難易 | 裂果の 発生 |
|----------|----------|----------|----------|------------|------|-----------|-----------|-----------|
| | | | | a値 | a/b値 | | | |
| 「熊本EC10」 | 倒卵 | 99 | 濃橙 | 28.9 | 0.44 | 滑 | 中 | やや多 |

注) 2009年12月8日採収、12月9日調査。

表3 「熊本EC10」の果実特性②

| 品種名 | 1果重 g | 糖度 (Brix) | クエン酸 濃度 % | 糖酸比 | じょうのう 膜の硬さ | 果汁の 多少 | 種子数 | 胚数 |
|-----|----------|--------------|-----------------|-----|---------------|-----------|-----|----|
| | | | | | | | | |

注) 2009年12月8日採収、12月9日調査。



写真1 「熊本EC10」の着果状況



写真2 「熊本EC10」の果実